

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 伊美 聡 所属: 大阪府立和泉支援学校 記録日: 2016 年 2 月 27 日

キーワード: 「知的障がい・自閉症」「社会生活」「コミュニケーション」「動画」

【対象児の情報】

・学年 中学部1年男子生徒

・障害名 知的障がいを伴う自閉症

・障害と困難の内容

- ・発語に困難があり、意思伝達の手段が限られていた。文字盤や絵カードなどの取り組みも行われてきていたが、入学当初は、「伝わった」実感がもちにくい日常の中で、自発的に伝えようとする場面が少なかった。
- ・日常生活も、受け身になりがちになってきている。

【活動目的】

・当初のねらい

- (1) 本人の興味のある活動の中でコミュニケーションの手段を増やす事で、伝わる経験を重ね、自発的な発信を広げる
- (2) 方法の見通しを明確にすることで、できることを増やして自信につなげる

・実施期間

2015年6月1日 から 2月27日

・実施者

伊美聡

・実施者と対象児の関係

対象児が所属しているクラスの担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

(1) コミュニケーションに関して

- 日常は一人で行動することを好み、自発的に周囲に呼びかけようとする姿は頻繁には見られない。
ただ、要求がある時は「うーうー」と声を出して周囲に訴えようとし、さらに指さしや保護者作成の文字チップ絵カードを使って伝えようとするが、それでも伝えきれないと感じた場合、泣くような声で必死に伝えることもある。
- 校外学習時、白鳥にあたえる食べ物がなくなった時に「エサ かう」と並べたことがある。
このことから、簡単な指示を聞いて動くことができ、保護者が作った文字チップで自分の意思を示すことができる。また、単語であれば、名詞や動詞などの基本的な語彙も獲得している事もうかがえる。ただ、それほど使うことはない。

(2) 身の周りの自立に関して

- 家では、主にゲーム機を使って遊ぶことが多い。
- 着替えの際、前後逆の着衣や、脱いだものをたたまないことが見られた。
その後、前と後ろの区別については、保護者の協力により、前側に目印をつけることでほぼできるようになってきた。
- 「自分でできること」を増やすための取り組みに対して、保護者は特に関心が高い。

・活動の具体的内容

ねらい(1): ①発信の機会を増やす取り組み ~朝、帰りの会の司会の場面で の”DropTalkHD”の活用~

②思いを伝える経験を重ねる取り組み ~文字盤から” TalkingAid”の活用~

ねらい(2): 動画を活用して、日常の中でできることを 増やしていく取り組み

・活用したアプリ

| | | | |
|---|---|---|---|
|  |  |  |  |
| DropTalkHD | TalkingAid | カメラ機能 | iMovie |

・対象児の事後の変化

○ねらい(1)について

①”DropTalkHD”の活用について

- 本校でも学校がある日は、必ず朝の会、帰りの会を実施している。

活用前、対象児が日直の際、朝の会、帰りの会では、常に担任が横についた状態で対象児は司会を行っていた。司会進行は横にいる担任が進め、例えば対象児がクラスメートを指名する時、対象児がクラスメートを指さし、そのあと対象児の横にいる担任がクラスメートの名前を呼ぶ、という形で進められていた。そこで、朝の会、帰りの会での流れを担任が”DropTalkHD”にまとめ、対象児が司会時にそれを使うことで「伝わる」経験を重ねる取り組みを始めた。

- 朝の会、帰りの会を並べたキャンバスをそれぞれ作り、加えて音声付きで並べた。”DropTalkHD”にない画像は担当者が撮影した。また、クラスメートや担任を指名する時に使うキャンバスも作り、会の進行に必要なものをまとめた。

| | |
|--|---|
|  |  |
| クラスメート(上3段)や担任(下1段)を指名する時に使うキャンバス | 司会時に使うキャンバス(左:朝の会 右:帰りの会) |

- 活用が始まると、すぐに使い方を覚え、一人でアプリの立ち上げをし、会の進行を行うようになった。

予め決まっている発表者を指名する際、対象児は、必ず1人目を間違えてクラスメートから「なんでやねん！」とツッコまれ、笑いにつつまれる場面がみられるようになった。対象児もそのやりとりを楽しみにしている様子が伺えた。



②”TalkingAid“の活用について

- 活動前、対象児は保護者作成の文字盤で伝えていたが、文字盤を並べるのに時間がかかり、思いが伝わらないと、泣くような声で訴えることもあった。そこで、帰りの会でふりかえりの場面時、対象児は文字を押すと発音する”TalkingAid“を使い言葉を並べ、それを発表した。対象児の使いやすい物を使って、対象児の「伝えたい」思いを担当が支える取り組みを行った。

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>入力している様子</p> | <p>”TalkingAid“を活用しての1日のふりかえり入力例</p> |

- 活動開始当初は、「今日の楽しかった授業は？」と担任からの言葉かけで対象児は入力していた。使い方に慣れ、伝えたい時すぐ伝えられることを対象児が実感してから、複数単語を使い具体的な活動内容や簡単な感想、さらにはしたいことなども対象児から伝えるようになった。

○ねらい(2)について

- 活動前、対象児は担任による言葉かけをすることで片手によるたたみを行っていた。そこで、丁寧にたたむための手順の流れを動画で記録、視聴する取り組みを開始した。
- 動画は、”iPad”のカメラ機能を使って動画撮影した。ただ、撮影するのみでは、対象児のたたむスピードに対応するため、編集を行った。そこで、”iMovie”のスローモーション機能を使って、ゆっくりとした動画にした。活用の際して、担任による事前指導を行い、その後対象児が動画を自由に見ることができるよう対象児の近くにおいて取り組むこととした。

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>活動前のたたむ様子(5月)</p> | <p>たたみの仕方をまとめた動画の一例</p> |

- 動画を見ることで、対象児はコツをつかむことができ、一人で両手を使ってたたむことができるようになってきた。さらにトークンエコノミーも取り入れることで、意欲づけと評価につなげてきた。ただ、対象児は、手順はわかっているが、すわってたたむ姿勢がしにくそうな様子がうかがえた。そのため、対象児にとってたたみやすく、また片付けしやすいよう、机の上でたたんだり、ハンガーの活用等、手順や方法を多様化することで、最後までやりとげることが日常的にみられるようになり、自信をつけてきた。



トークンエコノミー例

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

ねらい(1)対象児の発信の場面や手段を多様にする事で、対象児の「他者とかかわりたい」「他者に伝えたい」と思いが以前より表出するようになったのではないか。

ねらい(2)対象児にとって見通しを持ちやすい手段を活用することで、今まで難しかったたむまでの流れも、一人でできるようになったのではないか。

・エビデンス(具体的数値など)

ねらい(1)について

- ①活動開始当初から自らキャンバスを変更できるなど、すぐに使い方を覚え一人で会の進行を行うようになった。
 - 時には、本来指名すべきクラスメートをわざと間違えて、クラスメートからのツッコミでクラス中がわらに包まれる、ということが何度もみられるようになった。今では、日直の朝には、いつもより早く着替え、片づけをし、自ら iPad を入れている袋から iPad を取り出して、朝の会の時間までには準備が終わるということが続いている。
 - ②下のグラフ「ふりかえりで使用した単語数の変化」にも示したが、複数単語を使ってふりかえることが増えてきた。
 - また発言内容では、下の「発言内容の変化」にも示したが、当初の「授業名」から「楽しかった授業と内容」、「もっとしたかったこと」と内容が多様化していった。
- 活動開始当初は、授業名を答えるのみのふりかえりが多かったが、徐々に使い方に慣れクラスメートの反応を感じることで、複数単語で楽しかったこと等を伝えようとしたのではないかと考える。そして、伝えたいという気持ちが出たのか、言葉を並べる際に担任の言葉かけなしで並べるという、発言の仕方に変化が見られた。
- さらに発言場面でも、当初の帰りの会でのふりかえり場面のみから、授業での解答場面、休み時間等の活動場面と増えていった。

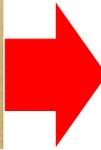
| | |
|----------------------------|--|
| <p>グラフ 振り返りで使用した単語数の変化</p> | <p>活動開始当初【楽しかった授業名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「びじゅつ」 ●「ぐるーぷがくしゅう」 <p>2学期【楽しかった授業名と授業の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「さぎょう カラフルオムレツ つくる」 ●「さぎょう サンタくつした かみ ●「グループがくしゅう ひらがな ものはる オレンジ」 (なまえ) ガギグゲゴ」 <p>【もっとしたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「みどり アプリ」「はなび アプリ」 ●「オレンジボール かえりのかい すず した」 ●「サンタクロース スロット ストップ」 |
| | <p>発言内容の変化(観察記録より)</p> |

P3①②の活動を通じて

対象児の使いやすい物を使うことで、対象児からの積極的なかわろうとする姿がみられるようになった。ある時は、対象児はクラスメートや担任に対して冗談を示したり、別の時には対象児が苦しんでいることを必死に伝えようとしたりと、喜怒哀楽を iPad で表現しようとしていた。クラスメートは対象児のそのような様子を見て、笑いに包まれたり、対象児のために何かをしようと行動する様子うかがえた。活動を通じて、対象児は「伝わる」実感を重ね、ある時はクラスメートの反応を楽しむかのように、またある時は思いを必死に伝えようとするなど、「他者に伝えたい」思いがますます表出していったのではないかと考えらえる。

ねらい(2)について

活動当初は動画を見ることがただ楽しい様子で、自分の行動に反映させることへの意欲はあまり見られなかった。そこで、トークンエコノミー（P3 写真）の活用を始めた。自分の行動でトークンがたまっていくことを理解してからは、動画を確認した後自分一人ですすむ様子がみられるようになった。日々取り組むことで、たたみ方も片手から両手でたたむ様子がみられるようになったが、床の上でたたむ様子がたたみにくそうなのであったため、机の上でたたんだり、ハンガーにかけてロッカーにつるすなど、対象児がしやすいように変化を持たせたことで、継続的に取り組む様子がみられるようになった。



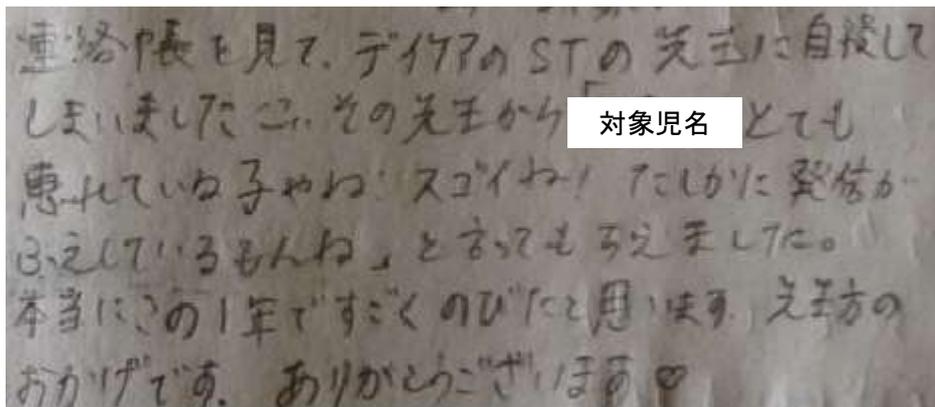
対象児のたたむ様子の変化(5月 → 12月)

ハンガーに服をかける様子(1月)

・その他エピソード

○対象児の担当 ST の先生からのコメント

1年ぶり通った ST の先生から、「発信が増えてるもんね」というコメントをいただいたと、連絡帳に記載があった。対象児は、活動開始以前は必要以上に人とかかわろうとすることがそれほど多くなかったが、1年間の活動を通じて、保護者作成の文字盤やタブレット端末を使って担任やクラスメートとたちとかかわろうとようになってきた。かかわっている時の対象児は常に笑顔であり、その笑顔に周りになごんだ雰囲気になり、その様子を見て、笑いを取ろうとするなど周りとかかわろうとする…そのような変化を保護者はうれしく感じて、「(取り組みの成果を)」「ST の先生に自慢してしまいました」、「(対象児は)すごくのびたと思います」という保護者からのコメントにつながったのではないかと考える。



連絡帳より